

# Web会議システムを活用した 授業の進め方

2校で行う遠隔授業の実践より

【具体例】第2学年：国語科「あったらいいな、こんなもの」

# 複式学級の悩み

1学年の子供の数が少なく、同学年の子供と意見や感想を交流できる機会が少ない。



## Web会議システムを活用

他校の同学年の子供と一緒に**遠隔授業**を行うと...

- 意見交換・感想交流により、多様な価値観に触れることができる。
- 相手意識や目的意識をもった活動により、意欲が高まる。

そのためには...

相手校との事前の打合せ、共通理解を図った上での実践、次の改善に生かす振り返りが大切です。

# 相手校との打合せ・授業実践の流れ

## ① 単元の決定

年度当初に、遠隔合同授業をする学校が集まって、研修会を実施します。全体会の後、各学年に分かれ、担任同士が、どの単元で授業を行うかを話し合います。前年度の資料を見て、同じ単元を改善して行うか新しい単元にチャレンジするかなどを決定します。

- ・ 意見や感想を伝え合う交流場面があるなど、多様な価値観に触れることができる単元の選定
- ・ 発信校と受信校の決定

## ② 具体的な指導計画づくり

授業をする担任同士が、連絡を取り合いながら計画を立てます。

- ・ 単元指導計画・授業デザインの作成
- ・ ワークシート等の資料の作成

## ③ 日程の決定

②と同じく、授業をする担任同士が具体的な日程を決めます。

- ・ 互いの学校の行事等に重なりがないかの確認
- ・ 遠隔授業を行う日と、行わずにそれぞれの学校で学習を進める日の確認

## ④ 単元実施計画の作成

単元が決まったら、  
**単元実施計画**を作成します。

単元のねらい・授業日・接続する  
時数・各時間に行う学習活動等  
について、「単元実施計画」で明確に  
しておくことで、それぞれの学校で  
見通しをもって授業を進めていく  
ことができます。

本事例においては、遠隔授業のときには  
複式学級を解消して実施しています。

学校で組織的に遠隔授業に取り組むこと  
で、一方の学年は別の教師が授業を行う  
(専科の時間をうまく組み合わせる)など、  
単学年での授業時間をもつことができます。

## 遠隔合同授業 **単元実施計画**及び振り返り資料

接続校

発信校名	小学校	受信校名	小学校
学年・組	2年2組	学年・組	2年

教科等

教科等	国語科	全体時数	8時間
単元名	あったらいいな、こんなもの	接続時数	2時間
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて使うことができる。【知】</li> <li>話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想を持つことができる。【思】</li> <li>伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。【思】</li> <li>遠隔合同授業を行うことで、話し手の伝えたいことを聞こうという意欲を高め集中して聞き内容を捉え、質問や感想を述べようとしている。【態】</li> </ul>		

単元指導計画

時	接続	授業日	校時	主な学習活動
1	○	7/6	3	学習の見通しを持つ。
2		7/8	5	あったらいいなと思うものを絵に描いたり効果を短くまとめたりする。
3		7/10	1	あったらいいなと思うものを考えたわけや、その働きを考えてまとめる。
4		7/13	1	互いの考えを詳しくする質問の仕方を知る。
5		7/13	4	考えたものについて友達とやりとりをし、詳しくする。
6		7/14	2	発表の仕方を確かめる。
7		7/14	5	発表メモを作成する。
8	○	7/15	3	発表会を行い、学習を振り返る。

遠隔授業

実践事例：第2学年国語科  
「あったらいいな、こんなもの」より

## ⑤ 授業デザインの作成と授業の実施(第1時)

遠隔授業を実施する際は、**授業デザイン**を作成し、それに基づいて授業を行います。



学習の進め方が分かったよ。  
ドキドキするけど、発表会が  
楽しみ。

展開	時間	児童の思考と学習活動の流れ	T1、T2の役割と評価(☆) (○ICT ●学びあい)
問題の発見	15分	1 「あったらいいなと思うもの」について話し合う。 ・ 名前、できること、どんなときに使う物かを確認する。  2 本時のめあてを確認する。  本時のめあて はっぴょう会にむけて、学しゅうのすすめ方をたしかめよう。	<b>【T1】</b> ドラえもんの道具を見せて、用途について考えさせる。  ● ペアで道具の使い方について考え、全体で発表させる。 <b>【T1 T2】</b> 話し合いが止まっているペアを支援する。 ○ 道具の絵を書画カメラで映しながら発表させ、全体で共有させる。
追求	25分	3 学習の進め方を確かめ、発表会までの見通しを持つ。 ・ 教科書にのっている道具の使い方について考える。 ・ ワークシートに学習の進め方を書き込む。 ・ 全体で確認する。	<b>【T1】</b> 遠隔授業で発表することを伝え、発表会に向けて意欲を持たせる。  ☆ 学習内容について興味を持ち、どんなことをどんな順序で学習するのか見通しを持っている。

T1、T2の役割についても、確認します。

実践事例：第2学年国語科  
「あったらいいな、こんなもの」より

## ⑤ 授業デザインの作成と授業の実施(第8時)



こんな道具があると、楽しいね。  
どれぐらいの大きさなのかなあ。

展開	時間	児童の思考と学習活動の流れ	T1、T2の役割と評価(☆) (○ICT ●学びあい)
問題の発見	5分	1 本時のめあてについて確認する。  本時のめあて じぶんの考えたどうぐをはっぴょうし、友だちのはっぴょうを聞こう。	【T1】 自分の考えた「あったらいいな」と思うものについて聞き合うことを知らせる。
追究	35分	2 「あったらいいな」と思うものを発表したり、感想や質問を交流したりする。 ・「スペースシューズ」 ・「どこでも行けるぐつ」 ・「どうめいマント」 ・ ・ ・	○ 道具の絵をカメラで映しながら発表させ、全体で共有させる。  【T1T2】 自校の児童を指名したり、支援したりする。(交代で発表したり、質問したりする。)  ☆ 相手に分かるように説明したり、友達の考えたものについて熱心に聞いたりしているか。

多様な価値観に触れる  
交流場面の設定

- 多くの意見や感想を交流する。  
→ 学習に広がりや深まり
- 相手意識をもたせる。  
→ 活動への意欲の高まり

教科の単元のねらいに  
迫りやすくなる。

実践事例：第2学年国語科  
「あったらいいな、こんなもの」より

## ⑥ 実施後の振り返り

単元終了後、両校の担任が振り返りを記入します。

### 遠隔合同授業 単元実施計画及び振り返り資料

接続校			
発信校名	〇〇小学校	受信校名	□□小学校
学年・組	2年☆組	学年・組	2年
教科等			
教科等	国語科	全体時数	8時間
単元名	あったらいいな、こんなもの	接続時数	2時間
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気をつけて使うことができる。【知】</li> <li>話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。【思】</li> <li>伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。【思】</li> <li>遠隔合同授業を行うことで、話し手が伝えたいことを聞こうという意欲を高め集中して聞き内容を捉え、質問や感想を述べようとしている。【態】</li> </ul>		

単元指導計画				
時	接続	授業日	校時	主な学習活動
1	○	7/6	3	学習の見直しをもつ。
2		7/8	5	あったらいいなと思うものを絵に描いたり効果を短くまとめたりする。
3		7/10	1	あったらいいなと思うものを考えたわけや、その働きを考えてまとめる。
4		7/13	1	互いの考えを詳しくする質問の仕方を知る。
5		7/13	4	考えたものについて友達とやりとりをし、詳しくする。
6		7/14	2	発表の仕方確認する。
7		7/14	5	発表メモを作成する。
8	○	7/15	3	発表会を行い、学習を振り返る。
9				
10				

※ 接続する時は、「接続」に○を付ける。

単元の指導を振り返って ( _____…交流の効果 _____…課題 _____…改善案 )				
<p>&lt;発信校&gt; 普段の授業では意見交流できない他校の友達との発表の場をもつことで、子供は新鮮な気持ちで学習活動を楽しんだ。単元を通して意欲的に発表の練習に取り組み、遠隔授業では進んで友達に質問をする姿が見られた。今後は、自分のアイデアをより分かりやすく伝えるには、伝える事柄、話す順序等、更に工夫する必要があることにも気付かせたい。</p> <p>&lt;受信校&gt; 普段とは違うたくさんの友達の「あったらいいなと思うもの」を聞くことができ、子供はとても喜んでた。また、他校の友達に伝えようという意欲を高めながら単元に取り組み、当日も、自分の発表だけでなく、友達の話を中心して聞き、質問や感想を積極的に述べる事ができていた。課題としては、「あったらいいな」と思うものについてアイデアを出していく場面で、学級が少人数であるため、発想が広がりにくかったことが挙げられる。</p> <p>【改善点】アイデアを更に豊かに膨らませたり、相手により伝わるように発表の仕方や内容を改善したりできるように、交流の場面については、第5時でも行うことが効果的であると考える。</p>				

「単元実施計画及び振り返り資料」として、計画と振り返りを同じ様式に記入し、蓄積することで、次年度への引継資料としても活用できます。

単元の指導を振り返って ( _____…交流の効果 _____…課題 _____…改善案 )				
<p>&lt;発信校&gt; 普段の授業では意見交流できない他校の友達との発表の場をもつことで、子供は新鮮な気持ちで学習活動を楽しんだ。単元を通して意欲的に発表の練習に取り組み、遠隔授業では進んで友達に質問をする姿が見られた。今後は、自分のアイデアをより分かりやすく伝えるには、伝える事柄、話す順序等、更に工夫する必要があることにも気付かせたい。</p> <p>&lt;受信校&gt; 普段とは違うたくさんの友達の「あったらいいなと思うもの」を聞くことができ、子供はとても喜んでた。また、他校の友達に伝えようという意欲を高めながら単元に取り組み、当日も、自分の発表だけでなく、友達の話を中心して聞き、質問や感想を積極的に述べる事ができていた。課題としては、「あったらいいな」と思うものについてアイデアを出していく場面で、学級が少人数であるため、発想が広がりにくかったことが挙げられる。</p> <p>【改善点】アイデアを更に豊かに膨らませたり、相手により伝わるように発表の仕方や内容を改善したりできるように、交流の場面については、第5時でも行うことが効果的であると考える。</p>				

5	○	7/13	4	考えたものについて友達とやりとりをし、詳しくする。
---	---	------	---	---------------------------

遠隔授業を取り入れた効果

ねらいに照らした子供の育ち

明らかになった課題

次の実践や次年度への改善案

本実践を踏まえて、次の実践へ

実践事例：第2学年国語科  
「あったらいいな、こんなもの」より

# Web会議システムを活用した授業のポイント

## ☆ 他校と共通理解を図り、スムーズに実践につなげる

- 共通理解を図る場の設定  
(年度当初に全体での研修会、担当の顔合わせ)
- 指導や評価の明確化  
(単元指導計画、授業デザイン等の様式の活用)
- 次年度への引継ぎとしても活用できる資料を両校で蓄積

時	接続	授業日	校時	主な学習活動
1	○	7/6	3	学習の見直しを持つ。
2		7/8	5	あったらいいなと思うものを絵に描いたり効果を短くまとめたりする。
3		7/10	1	あったらいいなと思うものを考えたわけや、その働きを考えてまとめる。
4		7/13	1	互いの考えを詳しくする質問の仕方を知る。
5		7/13	4	考えたものについて友達とやりとりをし、詳しくする。
6		7/14	2	発表の仕方を確かめる。
7		7/14	5	発表メモを作成する。
8	○	7/15	3	発表会を行い、学習を振り返る。

もちろん、学校間の連携を進めるだけでなく、日頃の自学級(複式学級)の授業を充実させることが重要です！

